

2. 悪性線維性組織球腫の免疫組織化学的検討

病理学第一 安達 博信

悪性線維性組織球腫 (MFH) は多様な組織形態と構成細胞の多彩性により組織発生に関し異論がある。今回、軟部 MFH 9 例、骨 MFH 9 例を組織球系マーカーである Lysozyme, α_1 -Antichymotrypsin (ACT), α_1 -Antitrypsin (AT) を用い免疫組織化学的に検討した。MFH は男性に多く、発症年齢は骨 MFH がより若い。軟部 MFH は四肢、骨 MFH は大腿骨に多い。Lysozyme はそれぞれ 2 例、3 例に弱陽性、ACT, AT は共に高率に陽性だが、ACT の方がより高い陽性率を示した。しかし、同一症例に於いても部位により染色性が異なりまた同じ形態を示す細胞でも陽性のものと陰性のものがみられた。以上、MFH の腫瘍細胞はいずれも組織球系マーカーを保有してはいるが染色性は一定しない。これらの成績は腫瘍細胞の分化程度或は機能状態を反映しているのかどうか今後更に検討を進めたい。